



# 令和 2年度 杉並区事務事業評価表 (2)

## 令和元年度 事業実施状況 (D o)

整理番号 101

	内 容	規模	単位	事業費 (千円)
主な取組	杉並アニメーションミュージアム運営業務委託			57,775
	杉並アニメーションミュージアム建物維持管理委託			9,141
	他区連携事業			4,997
	なみすけの普及			1,994
	その他 (杉並アニメーションミュージアム著作権更新、光熱水費の支出ほか)			13,831
事業実績	<p>杉並アニメーションミュージアムでは、体験型展示の常設化や新たな翻訳機の導入などを行い、施設の魅力を高めましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による休館などにより、来館者数は前年と比べて約15,000人減少しました。また、「中野・杉並・豊島アニメ等地域ブランディング事業」として、イベントの開催や広域的な情報発信等を行いました。</p> <p>「なみすけ」については、感染症の影響によるイベント中止などに伴い、着ぐるみの延使用日数が前年と比べて21日減少しました。</p>			

## 令和元年度 評価と課題 (C h e c k)

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見 (期待・要望・苦情等)	<p>平成12年度に「アニメの杜すぎなみ構想」を策定し、アニメ匠塾 (アニメーター人材育成事業) などを実施すると共に、杉並アニメーションミュージアムを開設しました。平成22年度には、杉並版「事業仕分け」の結果を受け、一部事業を見直し、平成30年度には、ネーミングライツを導入しましたが、これまで展示の充実や積極的な情報発信により、杉並の観光拠点として来館者数を伸ばしてきましたが、コンテンツにより来館者数が左右されるなど課題もあります。</p> <p>「なみすけ」については、平成18年度に「すぎなみの輝き度向上」の一環で公募選定されました。平成25年度にはデザイン使用料を無償化し、商品化や地域団体等による無料頒布物の使用承認件数が増加する等、区内において高い認知度を得ています。</p>
事業の今後 (3~5年) の予測と方向性	<p>アニメは、世界に誇る日本の文化として国内外で高い評価を得ており、アニメの振興と活用は、今後も全国各地で取り組まれるものと考えられますが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって激減した外国人観光客数がいつ回復するか不透明です。</p> <p>一方、令和3年度に延期となった東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、一定の来街者が見込まれるため、その期を逃さず、杉並アニメーションミュージアムの来館者増のため、展示内容や多言語化等の充実を図っていきます。</p> <p>「なみすけ」については、区民に親しまれるキャラクターとして、引き続き積極的な活用を図ります。</p>
計画 (目標値) に対する実績 (指標の分析等)	<p>杉並アニメーションミュージアムの来館者数は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による外国人観光客の激減や感染症予防に伴う休館で、目標を達成できませんでしたが、長期的には増加傾向にあります。ただし、区民意向調査では、同ミュージアムを知らないと答えた人が44.6%となっており、施設の認知度向上が課題です。</p> <p>「なみすけ」の商品化許諾件数は、前年より増加しており、引き続き幅広くデザインが活用されるよう認知度の向上に取り組めます。</p>
評価と課題	<p>杉並アニメーションミュージアムの来館者数は、企画展のコンテンツの強さにより左右されるため、常設展の更なる充実が課題であるほか、施設の認知度向上のための効果的な情報発信等が課題となっています。</p> <p>区では、引き続き、展示や多言語化等の充実を通じて、観光資源としての価値を高め、更なる来街者の誘致を図っていくとともに、アニメ制作会社や商店街、近隣自治体等との連携を深めながら「アニメのまち杉並」として地域ブランディングを進め、地域のにぎわいの創出と活性化を進めます。</p>

## 令和 3年度の方針 (A c t i o n)

予算の方向性 (見直しの視点)	I. 事業コストの方向性	現状維持
	II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し (改善)
予算の方向性の理由・内容	<p>杉並アニメーションミュージアムについては、引き続き魅力ある展示や広域的な情報発信を行っています。特に親子連れの来館者をターゲットとし、親子で楽しめるワークショップの開催のほか、施設のレイアウト変更を検討していきます。また、外国人観光客向けに、展示の多言語化や多言語による情報発信を継続して行います。さらに、区内アニメ制作会社との連携による展示なども実施します。</p>	



# 令和 2年度 杉並区事務事業評価表（2）

## 令和元年度 事業実施状況（D o）

整理番号 102

	内 容	規模	単位	事業費（千円）
主な取組	「にぎわい・商機」創出プログラム（中央線あるあるプロジェクト）			42,000
	観光事業補助（東京高円寺阿波おどり）			2,000
	すぎなみ学倶楽部の運営			8,031
	観光PR（観光情報発信事業、すぎなみ観光大使事業等）			6,733
	その他（杉並ナンバープレートの周知・普及ほか）			1,396
事業実績	区内中央線4駅周辺の魅力を発信する「中央線あるあるプロジェクト」ではWEBやSNS等による多様な情報発信を行い新たに配信したYouTube動画は9万回以上の再生数となりました。また、同プロジェクトとの共催イベントである「高円寺フェス」には約21万人の来場があったほか、ネパール人学校と連携したアニメワークショップには46人の参加がありました。その他、区民ライターが区の魅力を紹介する「すぎなみ学倶楽部」では防災対策やラグビー特集等の注目度が高いテーマを掲載し、サイト閲覧数は平成30年度比140,342件増の767,743件となりました。			

## 令和元年度 評価と課題（C h e c k）

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見（期待・要望・苦情等）	平成24年度に商店街振興を図る観点から都市観光事業の取組を開始しました。平成25年5月には「にぎわい・商機」創出プログラム「中央線あるあるプロジェクト実行委員会」を発足し、平成26年度には新たに専管組織（観光係）を設置しました。近年、訪日外国人旅行者数は大幅な増加を見せ、令和元年の訪日外国人旅行者数は約3,188万人（対前年比約2.2%増）と過去最高を更新していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による緊急事態宣言や相次ぐ航空便の運休等により、今後の先行きは不透明となっています。
事業の今後（3～5年）の予測と方向性	令和3年度に延期された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、再び国外を含む多くの観光客が東京を訪れることが見込まれます。こうした状況は、競技大会終了後も継続していくと考えられ、「杉並ならではの」魅力ある観光コンテンツを通じて来街者を増やし、まちのにぎわい・商機を創出していくことが必要です。
計画（目標値）に対する実績（指標の分析等）	令和元年度は、特に、「すぎなみ学倶楽部」において、区の防災対策やラグビーの特集記事など、注目度が高いテーマを掲載した結果、サイトアクセス数が前年度比140,342件増の767,743件となり、目標値を大幅に上回りました。
評価と課題	区内に大型の観光資源や宿泊施設が少ない中、地域が育んできた魅力や特性を観光資源として、「中央線あるあるプロジェクト」や「観光情報発信事業」等により、区の魅力を国内外に発信してきました。令和元年度は、区内浴場組合と連携した銭湯のPRなど、いわゆる観光地とは異なる魅力を発信し、「モノ（消費）からコト（体験）」にシフトする外国人観光客をターゲットとした事業を実施しました。 観光客数は、新型コロナウイルス感染症拡大により大きく落ち込んでいますが、令和3年度に延期された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に合わせて区内外への情報発信を強化するなど、多くの来街者の誘致に取り組んでいきます。

## 令和 3年度の方針（A c t i o n）

予算の方向性（見直しの視点）	I. 事業コストの方向性	現状維持
	II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）・実施主体の見直し
予算の方向性の理由・内容	令和3年度は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が予定されており、東京を訪れた国外を含む多くの観光客を区内に誘引する好機となります。 区では、この好機を捉え、「中央線あるあるプロジェクト」や「すぎなみ学倶楽部」等を通じた情報発信を引き続き行い、来街者を増やすとともに、来街者に「また来たい」と思わせる仕掛けづくりを、既存の資源の活用や組み合わせを基本に、新たな観光資源として発掘・開発していきます。また、民間事業者及び地元商店街との連携による来街者の誘致に取り組みます。	



# 令和 2年度 杉並区事務事業評価表（2）

## 令和元年度 事業実施状況（D o）

整理番号 370

主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）
	すぎなみ景観ある区マップの増刷		57,000	部
	寄附趣意書の増刷	4,500	部	320
	休憩所等の維持管理	4	所	267
	大田黒公園周辺地区景観まちづくりニュースの発行	5,000	部	257
	その他（杉並景観録（第25号）の発行ほか）			1,644
事業実績	<p>杉並景観ある区マップは杉並区全域を9地区に分けて作成したマップで、57000部を増刷しました。また「杉並景観録」（第25号）はみどりの新聞「みどりとひと」（173号）の発行に合わせて17500部作成し、町会の回覧版として周知しました。荻外荘の復原・整備の寄附を募るため、寄附趣意書を4500部増刷しました。荻外荘の機運醸成の取組として、多くの見学者が訪れる大田黒公園秋のライトアップに合わせて荻外荘の建物内一部公開イベントや三庭園めぐりガイドツアー、スタンプラリー等のイベントを行い、荻外荘のPRと寄附のお願いをしました。</p>			

## 令和元年度 評価と課題（C h e c k）

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見（期待・要望・苦情等）	<p>事業開始当初から景観の普及啓発を主な事業として取り組んできましたが、平成21年度に景観行政団体となり、平成22年6月から杉並区景観計画の運用を開始し、景観法に基づく届出制度等による景観づくりを始めました。平成28年6月に社会情勢の変化等を踏まえ、杉並区景観計画及び杉並区景観条例の一部を改正しました。景観は、杉並のまちに魅力を感じる指標の一つとして考えられ、区民意向調査では杉並のまちを美しいと思う人の割合は7割を超え、着実に増加しています。荻外荘は、平成28年に国の史跡に指定され、令和元年度に整備基本設計に着手しました。</p>
事業の今後（3～5年）の予測と方向性	<p>区民、事業者が自ら景観に関心を持ち、積極的に景観計画に取り組むことで杉並の面影を伝える歴史的建造物や貴重なみどりを守り、みどり豊かで美しい住宅都市を形成していきます。荻外荘の復原・整備については、区内外の人のご理解とご協力をいただきながら実現に向け着実に整備をしていきます。</p>
計画（目標値）に対する実績（指標の分析等）	<p>景観録については17500部作成し、町会の回覧版に載せることで、より多くの人に読んでもらう機会を作ることができました。大田黒公園周辺地区景観まちづくりニュースでは地区計画のあらましをお知らせするとともに、この地域にある大田黒公園、角川庭園、荻外荘の三庭園に関連したイベントの開催情報や国指定史跡である荻外荘（近衛文麿旧宅）の整備状況等の情報を発信し、杉並の歴史的建造物やみどり豊かなまちなみを周知することで美しいまちづくりに取り組んでいます。</p>
評価と課題	<p>荻外荘の復原・整備については基本設計に入るなど公開までのスケジュールが具体的になり、機運醸成（荻外荘の認知度の向上、「荻外荘ファン」の拡大、寄附金の増加等）を加速化させる必要があります。さらに、大田黒公園、角川庭園などの魅力ある観光資源をハード・ソフトの両面から整備し、歴史的・文化的資源を生かした観光まちづくりを推進していかなければなりません。</p>

## 令和 3年度の方針（A c t i o n）

予算の方向性（見直しの視点）	I. 事業コストの方向性	拡充
	II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）
予算の方向性の理由・内容	<p>荻外荘の認知度の向上としてわかりやすい情報発信、荻外荘の関心を持ってもらうため関連イベントの実施、復原・整備の「見える化」、荻窪にある三庭園（荻外荘、大田黒公園、角川庭園）の魅力を生かしたイベント等により機運醸成を図ります。また、荻外荘の復原・整備に参加してもらうため、区内外の方に支援を幅広くお願いする寄附金募集の強化を図るとともに、あわせて企業の支援をお願いしていきます。</p>	



# 令和 2年度 杉並区事務事業評価表（2）

## 令和元年度 事業実施状況（D o）

整理番号 374

主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）
	クールスポット整備工事		1	件
	（仮称）荻窪駅周辺回遊性向上アクションプラン作成等支援委託	1	件	4,247
	（仮称）荻窪駅周辺サイン整備基本ルール作成等支援委託	1	件	2,287
	荻窪駅周辺まちづくりニュースの発行	1	件	420
	その他（管理経費、消耗品購入費ほか）			2,874
事業実績	荻窪駅周辺都市総合交通戦略に基づき、駅北口広場にクールスポットを整備するため、ミスト装置の設置や、交通事業者等と意見交換を行い、荻窪駅周辺サイン基本ルール（案）の作成をしました。また、荻外荘周辺エリアの歴史的文化的観光資源の活用に向けてまちづくりニュースを約23,000部発行し、普及・啓発に取り組むとともに、「荻窪の歴史・まち・人を想う15の提案」を策定しました。			

## 令和元年度 評価と課題（C h e c k）

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見（期待・要望・苦情等）	区内最大の交通結節点荻窪駅周辺のまちづくりに取り組み、魅力を高め、杉並全体を牽引していくことで、住宅都市としての発展を目指していく事業として、地域の特徴と課題を明らかにしました。地域住民の方々より「荻窪駅周辺地区まちづくり構想（平成27年度）」の提案を踏まえ、まちの将来像・目標を定め、テーマ別、エリア別に実現に向けた取組を示した「荻窪駅周辺まちづくり方針（平成28年度）」定め、その実現を図るために「荻窪駅周辺都市総合交通戦略（平成30年度）」及び「荻窪の歴史・まち・人を想う15の提案（令和元年度）」の策定をしました。また、鉄道や幹線道路等による南北分断の解消や、駅及び駅周辺の交通機能や利便性の向上などが挙げられる一方、良好な住環境については、維持・保全を求める声も多くあります。
事業の今後（3～5年）の予測と方向性	「荻窪駅周辺まちづくり方針」に掲げる交通関連の取組と連携した総合的・一体的なまちづくりの推進は、駅前大規模商業施設の機能更新時期や周辺街区での共同建替えなどの機会を捉え、中長期的な取組として進めることとなりますが、「荻窪駅周辺都市総合交通戦略」に示した施策の実施工程表に対する期待と関心が高いことから、施策実施後には適切な評価をし、その結果に基づく柔軟な見直しを図り、推進管理を行います。また、荻外荘をはじめとした周辺エリアをハード・ソフトの両面から歴史的文化的観光資源として活用する「荻窪の歴史・まち・人を想う15の提案」の周知と共にプランの推進を行います。
計画（目標値）に対する実績（指標の分析等）	成果指標であるまちづくり計画2件の策定に向け、地元住民や各種団体、関係事業者との打合せや意見交換を頻繁に行い、1件の計画策定を達成するが、より深化した打合せにより、調整が難航し、策定に至らなかった計画があった。また、普及啓発活動として、事業計画の理解を深めるためのニュース発行は、予定通り達成し、成果達成の一助となりました。本件活動指標の達成が、成果達成に至ることが確認出来ました。
評価と課題	「荻窪駅周辺まちづくり方針」の具体化を図るための「荻窪駅周辺都市総合交通戦略」の推進に向けて、事業主体と実施時期を明確にするとともに、相互に連携し、総合的・一体的に取組む必要があることから、今後も関係者と継続的に意見交換及び連絡調整を行い、情報の共有化を図りながら、PDCAサイクルに基づいた、施策の推進管理を進めていきます。あわせて、荻外荘周辺エリアの歴史的文化的観光資源の活用に向け策定した「荻窪の歴史・まち・人を想う15の提案」を推進するため、地域住民・団体、事業者及び行政がそれぞれの役割を担いながら協働し取組を進めていきます。

## 令和 3年度の方針（A c t i o n）

予算の方向性（見直しの視点）	I. 事業コストの方向性	拡充
	II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）
予算の方向性の理由・内容	今年度策定予定の、乗換経路の改善を目指す「荻窪駅周辺サイン基本ルール」に基づく「（仮称）案内サイン整備基本計画」に従って、交通事業者と協力してサインの整備を行います。また、（仮称）荻外荘公園公開に合わせ、地域の方々とともに、荻窪の魅力と回遊性を向上させる取組を進めます。更に、南北分断の解消と駅及び駅周辺の交通機能や利便性の向上に向けた分科会の設置に向けて、調査・検討を行います。	



# 令和 2年度 杉並区事務事業評価表（2）

## 令和元年度 事業実施状況（D o）

整理番号 375

主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）
	西荻窪駅周辺まちづくり懇談会運営等支援業務委託	1	件	5,489
富士見ヶ丘駅周辺まちづくり方針策定支援業務委託	1	件	3,740	
中杉通り沿道まちづくり検討支援業務委託	1	件	2,255	
駅周辺まちづくり（荻窪の歴史と記憶に触れられる写真展示等）	2	件	293	
その他（事務費ほか）			247	

事業実績  
阿佐ヶ谷駅等周辺については、中杉通り沿道の安全・快適で魅力的なまちづくりの具体化に向けて、庁内検討部会において歩行者空間、自転車空間の改善について検討を行うとともに、関係機関から意見聴取を行いました。西荻窪駅周辺については、まちづくり方針の策定に向けた取組として、平成30年度に引き続き、まちづくり懇談会等を開催するとともに、まちづくりだよりによる情報発信を行いました。富士見ヶ丘駅周辺については、オープンハウス（パネル展示）を開催するとともに、まちづくり方針の中間まとめの作成に向けた取組を進めました。

## 令和元年度 評価と課題（C h e c k）

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見（期待・要望・苦情等）	<p>事業開始当初は、駅舎の橋上化や市街地再開発事業等に代表される駅周辺整備といったハード施策を中心に取組んできました。</p> <p>現在は、交通拠点である駅を中心に、地域の特性を生かした商業の活性化や生活の利便性向上を図り、にぎわいと多彩な魅力のあるまちづくりを進めています。</p> <p>また、様々な地域資源の活用について検討し、ハード施策とソフト施策の連携を図りながら、多心型まちづくりの推進に取り組んでいます。</p> <p>なお、懇談会等では、まちづくりの事業に対して、安全・安心やくらしやすさを求める意見などがあります。</p>
事業の今後（3～5年）の予測と方向性	<p>今後も駅周辺のまちの特長・課題を踏まえ、まちの動向や社会経済状況の変化に対応しながら、区民・事業者・行政が一体となって戦略的・計画的にまちづくりを推進する必要があります。</p> <p>そのため、まちの将来像やその実現に向けた取組の方向性を明らかにする、まちづくり方針を策定します。また、まちづくり方針策定後については、その実現に向けた取組を進めていきます。</p>
計画（目標値）に対する実績（指標の分析等）	<p>駅周辺まちづくりの取組として、懇談会等の開催やまちづくりだよりの発行を行い、活動指標を達成しましたが、まちづくり方針の策定には至りませんでした。</p> <p>そのため、引き続き懇談会等の開催やまちづくりだよりの発行による情報発信を行い、まちづくり方針の策定を目指します。</p>
評価と課題	<p>地域の特性を活かした商業の活性化や生活の利便性の向上を図るとともに、ハード・ソフト施策の連携を図りながら多心型まちづくりの推進に取り組みました。今後もまちの動向や社会状況の変化に対応するため、区民・事業者・行政が一体となりまちづくりを推進していく必要があります。</p> <p>阿佐ヶ谷駅等周辺では、中杉通り沿道の安全・快適で魅力的なまちづくりの具体化に向け、歩行者空間や自転車空間の改善に向けて地域や関係機関と連携を図りながら検討を進めます。西荻窪駅周辺では、引き続き地域住民等を対象としたまちづくり懇談会等の開催やまちづくりだよりによる情報発信を行うなど、まちづくり方針策定に向けた取組を進めます。富士見ヶ丘駅周辺では、令和2年度末のまちづくり方針策定に向けて、まちの将来像を地域の方々と共有しながら更なる検討を進めます。</p>

## 令和 3年度の方針（A c t i o n）

予算の方向性（見直しの視点）	I. 事業コストの方向性	現状維持
	II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）
予算の方向性の理由・内容	<p>阿佐ヶ谷駅等周辺については、中杉通り沿道の安全・快適で魅力的なまちづくりの具体化に向けて、歩行者や自転車空間の改善について、地域や関係機関との連携を図りながら検討を進めます。</p> <p>西荻窪駅周辺については、引き続き、地域住民等を対象としたまちづくり懇談会等の開催を図り、地域の動向を踏まえて、まちづくり方針の策定に向けた取組を進めます。</p> <p>富士見ヶ丘駅周辺については、地域の声を丁寧に聞きながら、令和2年度末にまちづくり方針を策定します。</p>	